三学年通信

第０５号
令和５年６月５日（月）

6月（麦秋）、まもなく入梅…今年も長い雨季の到来へ

★昨年・一昨年も今頃に同じことを書きましたが、６月は麦の刈り入れの季節であることから、古来「麦秋」と呼ばれます。この時季から梅雨前線の動きも活発となり、先週は東海地方まで入梅となりました関東地方も間もなくでしょう。ジメジメした過ごしにくい日本の雨季が今年もやってきます。

この時季に特に注意してほしいのが自転車の傘さし運転です。ただでさえ雨で濡れるとブレーキの利きも低下するのに、片手で運転するとなればバランスもとれず、視界も悪くなって危険です。事故は起きてからでは遅いのです。絶対に傘さし運転はしないこと。また、梅雨の時季は気温の急変によって風邪をひいたりして、体調を崩しやすくなります。食べ物も傷みやすく、食中毒も起こりやすいので、これも注意です。

また、６月から正式に夏季略装の期間に入りましたが、上着を脱ぐ機会が増えてくると、シャツの裾を出したり、ボタンをはずして前をはだけたりと、だらしのない格好が目立ってきます。蒸し暑いのは分かりますが、服装の乱れは気の緩みにもつながりますし、一般の人にも不快感を与えかねません。折しも、校則の頭髪規定が見直され、ツーブロックの髪型が違反ではなくなりました。今のところ皆さんはきちんと服装規定を守っており、大きな乱れを感じることはありませんが、なぜ服装規定があり、それを守らなければならないのか、ということは以前にも述べました。自分を律する意味でも、規定を守る意識を強く持ってください。

最後に、先週から３名の教育実習生がやって来ています。３年生の授業にはほぼ関与しませんが、部活動等でお世話になる人もいるでしょう。大学生、そして皆さんの先輩でもある教育実習生は、学習だけでなく受験の体験談など、いろいろなことを伺うのに最適の存在です。残すところあとわずかですが、いろいろな機会を見て交流し、多くのことを学んでください。

いろいろ書きましたが、今月は文化活動発表会や防災避難訓練のような行事があり、中間テストが先日終わったばかりというのに、月末からはすぐ期末テストも始まります。運動部では関東大会やインハイ予選に臨む人もいるでしょう。諸々の詳細はおって話をしていきますが、時間を大切にして毎日を有意義に過ごしてほしいと思います。

中間考査&進研模試終了、テスト直しをしっかりやろう!

★中間テストと進研総合学力マーク模試が５月の下旬に実施されました。中間テストは返却がどの教科でも終わったあたりでしょう。４月に行われた全統マーク模試も結果が戻ってきました。

今さら言わずもがなのことですが、試験が終わったら得点を見て一喜一憂でおしまいではなく、テスト直しをしっかりやってください。特に模試は「模試ノート」を作成・活用すると良いでしょう。すでにやっている人は分かっているでしょうが、「模試ノート」とは専用のノートを用意して、それに模試に出題された事柄や解法（模試ごとに配布される解答の小冊子に載っているもの）を整理する、というものです。模試の問題というのは一種の入試予想問題であり、狙われやすいところ（＝重要事項）が出題されます。これを放っておく手はありません。せっかく受ける模試なのだから徹底的に生かすべきで、まさしくこれなら模試の問題や解答をフルに活用できます。実際、今までもこれをやって、効果を上げた生徒もいます。何にせよ、自分に適した学習方法を早く確立し、計画性をもって取り組んでください。

白鸚曰く、「やっている」と「出来ている」は違う…学習も然り

★高校３年生に進級して２ヵ月が経過し、休み時間に学習したり、放課後は学習室（第一会議室）で遅くまで自学自習したりする人の姿が増えてきました。皆さんの３年生としての自覚や受験に対する意識の向上が感じられます。しかしまた、学習時間が増えればそれで良いわけでもなく、当然ながら中身の濃さも肝心です。

私の敬愛する歌舞伎役者の二代目・松本白鸚（今の十代目・松本幸四郎や俳優の松たか子さんの御父上）は、「『やっている』のと、それが『出来ている』のとは違う」とある本で述べています。白鸚は歌舞伎役者でありながら、現代劇やミュージカル、テレビドラマに映画と幅広く活躍しています。それは観客の心に感動を与えるため、型にはめられることを嫌い、常にニュートラルな姿勢を維持しようとする彼の、ひいては歌舞伎を配給する親玉会社の松竹と喧嘩別れをしてでも息子にそういう道を歩ませようとした、彼の父である先代（初代）の松本白鸚を始めとする「高麗屋」（松本家の屋号）一門の挑戦意欲の表出であり、この言葉にはそんな白鸚の、やるからにはどんな芝居に対しても真摯でありたい、という役者としてのアイデンティティが込められているのです。しかし、言わんとしていることは芝居に限らず、学習を初めとしたあらゆることに通じます。学習してもなかなか結果がついてこない人は、ただ漫然と「やっている」だけになってないか？　計画性のない、行き当たりばったりの内容のままでいたりしてないか？　計画を立てていても、それをただ消化するだけの、うわべだけの学習になっていないか？　今の自分の学習が「自己目的化」していないか（自己目的化…現代文で意味を学習しましたよね）、……真に効果的に行われているかどうか、常に確かめ、問題があれば修正していくことが大切です。そして、学習を効果的に行う、真の「出来ている」受験生に早く全員がなってほしいものです。

ところで、松本白鸚の代表作のひとつでもあるミュージカル『ラ・マンチャの男』は、“見果てぬ夢”を追い続ける、滑稽な誇大妄想主義者のドン・キホーテを扱った作品です（白鸚はキホーテと、彼を主人公にした小説の作者・セルバンテスの二役を演じている）。白鸚は1969（昭和44）年、２６歳の初演（当時は市川染五郎）から半世紀以上もこの芝居の主役を務め、本場ブロードウェイでも英語で舞台に立ちました。以来、今年の４月に齢８０にしてファイナル公演を迎えるまで、その上演回数は1324回にものぼり、同一作品を一人の俳優が単独主演するミュージカルの日本国内最多上演記録となっています（私もファイナル公演を含め、１０回ほど観に行きました）。

夢を追う人の姿は美しいものです。劇の終盤、クライマックスで主題歌『見果てぬ夢』を朗々と歌い上げるキホーテ（＝セルバンテス）を見て、つくづくそう思います。そして、その姿に演じる白鸚の生き様が重なって、諦めずに挑戦することの尊さを何度も教えられました。皆さんにも夢に向かって果敢に挑戦してほしいと思います。そして、皆さんの志望校合格が、悪い意味で“見果てぬ夢”となってしまわないよう、真摯に学習に取り組むことを願います。